

平成28年度 学校経営計画

練馬区立光が丘夏の雲小学校

学校教育目標

人間尊重の精神を基調として知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と、生涯を通して意欲的に学び続ける資質をもった児童を育成する。

目指す学校像(ビジョン)

【めざす学校像】

- ・教師と子どもが信頼し合い、子どもの夢を育む学校
- ・安心安全で人間性豊かな心を育む学校
- ・家庭、地域に信頼される学校
- ・オリンピック・パラリンピック教育の推進

【めざす子ども像】

- ・進んで学び 自ら深く考え 的確に判断できる子
- ・子どもの学びと心を育てることに、責任感をやりがいを持ち、全力で職務に取り組む教師
- ・他者を思いやり感謝の気持ちをもって行動できる
- ・公教育の立場と役割を自覚し自らの資質向上に真摯に取り組む教師
- ・素直で心も体も健やかでたくましい子
- ・全教職員が心身ともに健康で、使命感に燃え児童に夢を与えるために、一丸となる職員集団を形成できる教師
- ・夢を育む子
- ・授業力を高め、わかる授業を実践する教師

【めざす教師像】

- ・進んで学び 自ら深く考え 的確に判断できる子
- ・子どもの学びと心を育てることに、責任感をやりがいを持ち、全力で職務に取り組む教師
- ・他者を思いやり感謝の気持ちをもって行動できる
- ・公教育の立場と役割を自覚し自らの資質向上に真摯に取り組む教師
- ・素直で心も体も健やかでたくましい子
- ・全教職員が心身ともに健康で、使命感に燃え児童に夢を与えるために、一丸となる職員集団を形成できる教師
- ・夢を育む子
- ・授業力を高め、わかる授業を実践する教師

領域	中期経営目標	平成28年度の達成目標	具体的方策	評価指標・評価基準									
				努力指標		成果指標							
学力の向上	基礎的・基本的な学習内容の確かな定着を図り、主体的・継続的に学ぶ力を育てる。	児童の実態を詳細に把握し、個々の学習状況に応じた、きめ細かい指導・支援を徹底することにより、確かな学力の定着を図る。	算数科で少人数指導・TT等を行う際に、学年で共通理解の下、課題別や習熟度別等の個に応じた指導を行う。	4 学年共通で個に応じた指導を5単元以上実施した。	3 学年共通で個に応じた指導を4単元実施した。	2 学年共通で個に応じた指導を3単元実施した。	1 学年共通で個に応じた指導の実施は2単元以下だった。	4 テストの平均で児童の80%以上が90点を超える得点が取れる。	3 テストの平均で児童の70%以上が90点を超える得点が取れる。	2 テストの平均で児童の60%以上が90点を超える得点が取れる。	1 テストの平均で90点を超える得点が取れる児童が60%未満である。		
			あらゆる学習の基礎になる、言語による伝え合う活動を、どの教科学習にも取り入れ、コミュニケーション能力を培う。	4 全学級で取り組みを実施した。	3 80%以上の学級で取り組みを実施した。	2 60%以上の学級で取り組みを実施した。	1 取り組みを実施した学級は60%未満だった。	4 友達と考えや感想などを伝え合うことができる児童が90%以上である。	3 友達と考えや感想などを伝え合うことができる児童が80%以上である。	2 友達と考えや感想などを伝え合うことができる児童が70%以上である。	1 友達と考えや感想などを伝え合うことができる児童は70%未満である。		
豊かな人間性の育成	お互いに認め合い、尊重し合う活動を通して、豊かな心を育てる。	読む楽しさを体得できる読書活動を推進する。	区立図書館・地域協力者等との連携を図りながら、意図的・計画的な読書活動を行なう。	4 意図的・計画的な活動を完全に実施した。	3 80%以上の時間で意図的・計画的な活動を実施した。	2 60%以上の時間で意図的・計画的な活動を実施した。	1 意図的・計画的な活動を実施した時間は60%未満だった。	4 児童全員が学年の発達段階に適切な本を30冊(絵本60冊)以上読むことができた。	3 80%以上の児童が学年の発達段階に応じた本を30冊(60冊)以上読むことができた。	2 60%以上の児童が学年の発達段階に応じた本を30冊(60冊)以上読むことができた。	1 30冊(絵本60冊)以上の本を読むことができた児童は60%未満だった。		
			人とふれ合う活動を通して、思いやりや、感謝する心などはじめとする豊かな人間性を育む。オリンピック・パラリンピック教育の推進の中、人権を尊重する心を育てる。	地域の人材やアスリート含むゲストティーチャー等として招き、人とのふれあいを通して豊かな人間性を培う。	4 全学級で地域の人材やゲストティーチャーを活用できた。	3 80%以上の学級で地域の人材やゲストティーチャーを活用できた。	2 60%以上の学級で地域の人材やゲストティーチャーを活用できた。	1 地域の人材やゲストティーチャーを活用できた学級は60%未満だった。	4 異年齢集団の活動を年10回以上行なった。	3 異年齢集団の活動を年8回以上行なった。	2 異年齢集団の活動を年6回以上行なった。	1 異年齢集団の活動は年6回以下だった。	4 将来に対する夢や希望を育むことのできた児童が90%以上である。
学校事務	適正な学校事務の遂行と、児童の視線に立った教育環境を充実させる。	学校施設等の有効活用を図り、教育効果を高めると共に、エネルギー消費削減等の環境教育を進める。	学校施設等の効果的な活用に努めるとともに、環境教育の視点に立ち、リサイクルや節電等の取り組みを徹底する。	4 全学級で節電の徹底等、無駄を削減する取り組みを行った。	3 80%以上の学級で節電の徹底等、無駄を削減する取り組みを行なった。	2 60%以上の学級で節電の徹底等、無駄を削減する取り組みを行なった。	1 節電の徹底等、無駄を削減する取り組みを行なった学級は60%未満だった。	4 無駄を削減し、資源を有効活用しようとする児童が70%以上である。	3 無駄を削減し、資源を有効活用しようとする児童が60%以上である。	2 無駄を削減し、資源を有効活用しようとする児童は50%以上である。	1 無駄を削減し、資源を有効活用しようとする児童は50%未満である。		
			自分のよさに気付き、将来への夢や希望をもって生活する態度を育てる。	小中一貫教育を充実させ、隣接の光が丘第三中学校の生徒、学校に対しての憧れ・信頼・尊敬等の心を培い、将来への夢と希望を育む。	4 小中一貫を視野に入れた中学校との交流を4回以上行なった。	3 小中一貫を視野に入れた中学校との交流を3回行なった。	2 小中一貫を視野に入れた中学校との交流を2回行なった。	1 小中一貫を視野に入れた中学校との交流は1回以下だった。	4 将来に対する夢や希望を育むことのできた児童が90%以上である。	3 将来に対する夢や希望を育むことのできた児童が80%以上である。	2 将来に対する夢や希望を育むことのできた児童が70%以上である。	1 将来に対する夢や希望を育むことのできた児童は70%未満である。	
健康・安全教育の推進	健康な生活を営む力を育成する。	オリンピック・パラリンピック教育を推進し、健康の維持、増進、体力向上と食育に連なって取り組む活動を行なう。	全体計画に基づき、食生活に関心をもち、その改善・向上を目指した日常的な取組みを行なう。	4 全学級で食生活の改善・向上を目指した取組みを行なった。	3 80%以上の学級で食生活の改善・向上を目指した取組みをおこなった。	2 60%以上の学級で食生活の改善・向上を目指した取組みを行なった。	1 食生活の改善・向上を目指した取組みを行なった学級は60%未満だった。	4 食生活に関心をもち、改善しようとする気持ちをもった児童が80%以上である。	3 食生活に関心をもち、改善しようとする気持ちをもった児童が60%以上である。	2 食生活に関心をもち、改善しようとする気持ちをもった児童が40%以上である。	1 食生活に関心をもち、改善しようとする気持ちをもった児童は40%未満である。		
			新体力テスト等により、自らの体力を知り、主体的に体力向上を目指した活動を行なう態度を育てる。	4 全校で児童が主体的に体力向上を目指す活動を5回以上設定した。	3 全校で児童が主体的に体力向上を目指す活動を4回設定した。	2 全校で児童が主体的に体力向上を目指す活動を3回設定した。	1 全校で児童が主体的に体力向上を目指す活動を設定したのは2回以下だった。	4 主体的に体力向上を目指して活動した児童が80%以上である。	3 主体的に体力向上を目指して活動した児童が60%以上である。	2 主体的に体力向上を目指して活動した児童が40%以上である。	1 主体的に体力向上を目指して活動した児童は40%未満である。		
人権教育	安心、安全な生活を送る力を育成する。	学校の内外での安全な過ごし方に関する指導を徹底する。	地域や関係機関との連携を図り、児童の安全に対する意識を高める取組みを行なう。	4 児童が自らの安全を見直す取組みを4回以上行なった。	3 児童が自らの安全を見直す取組みを3回行なった。	2 児童が自らの安全を見直す取組みを2回行なった。	1 児童が自らの安全を見直す取組みを1回行なった。	4 意識が高まり、安全に留意した行動がとれる児童が80%以上である。	3 意識が高まり、安全に留意した行動がとれる児童が60%以上である。	2 意識が高まり、安全に留意した行動がとれる児童が40%以上である。	1 意識が高まり、安全に留意した行動がとれる児童は40%未満である。		
			児童にはお互いのよさを認め合い「伝える、伝わる」をテーマに教職員には体罰に頼らない指導観を徹底する。	きめ細かな観察と児童の実態アンケートをとり、常にいじめ把握に努める。特に体罰防止研修会を開き、教員の意識を高める。	4 児童、教員が人権感覚を見直す取組みを4回以上行なった。	3 児童、教員が人権感覚を見直す取組みを3回行なった。	2 児童、教員が人権感覚を見直す取組みを2回行なった。	1 児童、教員が人権感覚を見直す取組みを1回行なった。	4 いじめがある学級はなし、体罰をする教員もなしである。	3 いじめがある学級が1学級、体罰をする教員がなしである。	2 いじめがある学級が2学級、体罰をする教員がなしである。	1 いじめがある学級が3学級以上、体罰をする教員がいる。	